

AMUSEMENT SQUARE stage

演劇空間スペースベン

真冬の夜の夢

文／スペースベン代表・田中勉



▲11月5日の公演で300回を迎えたFANS。
「一人芝居、二人芝居、日本舞踊公演」より、右・田中勉氏。

眠れない夜が続く。昔から、夜も眠れない悩み事は、女か、金かのどちらかしかないと言われていたが、現代におけるストレス社会からすれば、単にそういうもので片づけられるものではないのかも知れない。

先日は、スーツ姿の中年の男性から、素晴らしいプレゼントをもたらったという夢を見、朝になったり、また夜になり、また、同じ夢が繰り返される。

夢なのか？ 夢を見ているのか。延々と同じ夢が続き、朝になり、また夜になり、また、同じ夢が繰り返される。

自分は、躁鬱病なのか？ 世の中に躁鬱病の人は数知れずいると思いつつも、それは、病気でないとはいえながら、自分は病気のかと問いかける。

常に、自分は完璧な人間では無いと言いつつも、ちっぽけな、何も出来ない自分と向き合っている。自分自身、人に傷つく。

そう言えば、何も出来ないのになんでも出来る顔をしている人間を最近よくみかけるなあ。人生をまっとうする年令が何年になったのかは知らないが、若くして悟った顔をする人間が、最近多過ぎる。全く、今まで生きて来た経験が、なんぼのもんだと思つてゐるのだらう。世の中はこんなにも、毎日動いているのに。

まあ、私が死んだら、少なくとも私を知っている人は「心半ばにして亡くなった」とは言わないで「まっとうして死んだ」と言ってくれ。

芝居にしても、日常生活に關しても、人と喧嘩し、それゆゑに自分を傷つけなければ、何事に関しても自分を傷つけない人間。酒を飲んでしか自分をさげ出さない人間。人それぞれであらう。自分が自分であるために、一生懸命もがいている。それでいいのだと思う。そこから表現活動がはじまつていっていい。

しかし、

そんな行為は全く幼過ぎる。昔「ガキじゃねえんだから」を口癖にしていた演出家？ 又は、プロデューサーもどきは、自分の「ガキ」さ加減に気が付かず、「真摯」という言葉だけを覚えて、大人になつたふりをしながら、クサつていつた。全く、「仲間」が好きで、不自由さが好きな、バカな大人になつていく人間が何と多いことか。彼は「二人」で何が出来るのか。表現するということ、創り上げるといふことが、いかに貴いことかを忘れ、エセエンターテイメントに頼つていく（これって本当に怖いことだぜ）。ま、これは、どこで活動していようが、本物を観たことがない、あるいは、観る眼がないからしょうがないことかもしれない。

まあ、どちらにしても、私には関係のないことである。それほど私も、ヒマではない。「人のふり見て我がふり直せ」ではないが、表現者として、あんなに自分を見失つた活動はしたくないものである。

その意味からしても、先月号のこの欄に掲載された、豊島重之氏

が批評している「モレキュラーシアター」の活動は、八戸市民も、その意義について、もつと認識すべきである。一部の訳の分からない批評家にしても、エセエンターテイメント家こと演劇家も近づけない、もつと貴い世界が、そこにはある。

八戸市、弘前市、青森市に批評の制度がないと嘆く前に、「モレキュラーシアター」の活動を観て欲しい。

そこにはきつと、観る側にとつて「居心地が良過ぎる」ことを気付かせずに、「居心地を悪くさせる」空間が表出しているはずである。

そして、これに気がつく人は少ないのかも知れない。もつともこれは、世界を目指すといひながら、チマチマ身の回りを固めている人間にはわからないことであらう。「枚挙にいとまがない」とはよくいつたものである。自分が何をすべきか、本当の意味で、敵をつくることなどなにもないといふことを認識すべきである。どういふ活動をしようが、どこで活動しようが、自分の無力さを感じ、だからこそ頑張れるんだという気持ちを持って、何の表現者であらうか。誤解を恐れず言わせてもらえば、私はそういう意味で、表現者として、百姓である。しかし、一番困るのは、百姓の「フリ」をする「ぼっちゃん育ち」の人間である。これはどうしようもない。

そんな人に言いたい。「家族に恥じない芝居をしたら」といふ。

1 月の Friday Amusement Negative Shop

※全て午後7時30分～、料金500円
※チケットはスペースベンにて販売

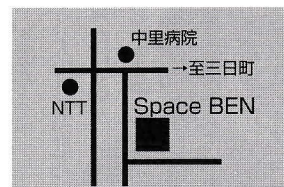
■7日(第309回)
■14日(第310回)
■21日(第311回)
■28日(第312回)

※すべて未定。
「FANSプレゼンツビデオ上映会」の予定

週替わりで、
おもしろい企画
満載です。

FANSの番組につきましては、デーリー東北の「あすのメロ」「きょうのメロ」欄でご確認下さい。

FANSでは、役者、スタッフ、その他何でも、何かを表現してみたい人を募集しています。ご遠慮なく、ご連絡下さい。



問 スペースベン 八戸市柏崎1-11-8
☎FAX 43-9876

駐車場はございませんので、車のご来場はご遠慮下さい。(近くに西町書店駐車場有り)